

峰ヶ丘会報

題字 松澤 康男 会長

第159号 2021 (令和3). 12. 10



応用生命化学科2年生の化学実習 2021年7月

CONTENTS

農学部100周年記念事業について	2
会長挨拶・学部長就任挨拶	3
理事長就任挨拶	4
峰ヶ丘同窓会の新型コロナ学生支援活動について	4
クラス会	4
特集 コロナ禍で学生生活はどう変化したのか	5
退職のご挨拶	8
新任教員のご挨拶	9
こんなことやってます 特別編	10
宇都宮大学3C基金	11
令和3年度理事会報告	12
支部長一覧・お悔やみ	13
決算書・予算書	14
お祝い・寄贈図書	15
昨年度退職の教員・今年度定年退職予定の教員	15
事務局よりお知らせ	15
編集後記	15
こんなことやってます	16
昔の同窓時報・写真をお送りください	16



大11～昭18 高等農林学校 昭19～23 農林専門学校 昭24～36 新制宇大 昭37～ 宇大校章

MINEGAOKA NEWSLETTER No.159
The Alumni Association
Faculty of Agriculture
Utsunomiya University
Utsunomiya 321-8505 Japan
E-mail:minegaok@cc.utsunomiya-u.ac.jp

農学部100周年記念事業について

農学部 創立100周年記念式典は 2023年（令和5年）に開催いたします



宇都宮大学農学部は、2022年（令和4年）、その前身である宇都宮高等農林学校が1922（大正11年）に設立されてから、100年目を迎えようとしています。

当初、2022年の100周年記念式典開催に向けて、農学部100周年記念準備委員会を中心に準備を進めておりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大を受けて、式典を1年延期し、2023年（令和5年）11月18日（土）に開催することといたしました。また、農学部100周年に合わせて予定されていた大谷石造りの旧図書館の改修については、コロナ禍による改修費用の増大から見合わせる

ことが決定されました。このような状況ではございますが、100周年の喜びを同窓生と盛大に分ち合えるよう、農学部と峰ヶ丘同窓会で密接に連携しながら100周年記念事業に取り組んで参ります。

日本の農学の発展の一翼を担って一世紀。宇大農学部は来年、おめでとう創立100周年を迎えます。新型コロナウイルスの蔓延の影響を受け記念式典の延期など、予定変更を余儀なくされてしまいましたが、100周年記念準備委員会ではアイデアを出し合いながら進めております。現時点で、新たな農学部の壮大なシンボルの作成（附属演習林に描く「U」の字）、100年を振り返る写真集の作成と峰ヶ丘同窓会誌集の公開、農学部100周年のアピールのための記念グッズ制作（Tシャツ：UNIOON（この意味、わかりますか？））などを進めております。今後とも皆様に喜んでいただけますよう努力いたしますので、是非皆様のお力添えをお願い申し上げます。

（文責：農学部100周年記念準備委員会委員長

農学部教授 齋藤 高弘）



記念Tシャツやロゴを作成中



附属演習林に描く「U」の字
2021年9月15日撮影（矢吹様ご提供）



長年に渡り発行した峰ヶ丘会報を
電子データ化し公開予定



会長挨拶

峰ヶ丘同窓会会長

松澤 康男 (農昭41卒)

先の見えない新型コロナ禍の中、峰ヶ丘同窓会会員の皆様におかれましては如何お過ごしでしょうか。私は、6月中にワクチン接種(2回)を終えて一安心したところです。

地球は46億年前に、ウイルスは30億年前に誕生したという。しかし人類にはまだ20万年の歴史しかないそうです。ヒトの遺伝子の総体(ヒトゲノム)の約10%はウイルス由来の遺伝子で、そのなかには子孫を残すために必須の遺伝子さえあり、ウイルスの遺伝子の力を借りなければ、人類の継続性が保証されません。実は人類は何万年も前からウイルスと共存・共生してきたのだという。為政者が唱える「ウィズ・コロナ」の時代のコロナ禍対策は、共存・共生の掟に叶うものなのでしょうか。

イギリスで詠まれた詩の中に「私とは私が出会った全て

の人のことを言う」という一節があるそうです。確かに私たちはこの世に生を受けるや、親、兄弟、友人など数限りない他者を見て、その関り(交わり)のなかで自己を創りあげます。その上、自己は他者のみならず大自然、そして人知を超えた世界(領域)との「関り合い」の中に存在していると言われていています。この「関り合い」をより広く、深く保つことで社会的、精神的、さらに身体的な安寧さえも得られるといわれています。人間の英知がコロナ・ウイルスの撲滅ではなく、ウィズ・コロナの道を選んでパンデミックを回避することができるかと案じている昨今です。

同窓会の目的は、大学(学部)への支援と会員相互の親睦を図ることであると記されています。峰ヶ丘同窓会の常任理事の皆様には、大学の教育、研究、社会貢献等の環境が激変する中、極めて多用な本務のかたわら同窓会の活動に取り組んでいただいているところです。ここに感謝し、引き続きご尽力して下さいますようお願いいたします。

峰ヶ丘同窓会の皆様におかれましては、私たちが「関り合い」の存在であることに心を留められ、このコロナ禍の克服・回避に鋭意務められて、新しい「その時」を迎えられますように祈念しております。



学部長就任挨拶

農学部長

山根 健治

同窓生の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。日頃より農学部へご協力を賜り、誠にありがとうございます。私は本学に30年間お世話になっておりますが、本年4月から学部長に任せられまして一言ご挨拶申し上げます。

世界人口が80億人に近づき、気候変動も激しさを増す中、本学部の役割は重要性を増しています。本年度から、東京農工大学連合農学研究科に加え、宇都宮大学先端融合科学専攻においても博士(農学)を授与できるようになりました。現在はコロナ禍のためオンラインが主体ですが、米国パデュー大学をはじめ、世界の多くの大学と交流や共同研究を行っています。昨年度から大学の世界展開力強化事業「アフリカの潜在力と日本の科学技術融合によるSDGs貢献人材育成プログラム」にも採択され、国際学部と農学部が中心に進めています。

THE世界大学ランキングにおいて、本学は教育面で日本62位、SDGs面では世界401-600位と健闘しております。

す。また、学位授与機構による最新の法人評価においても、本学部の教育活動は相応の質、教育成果は高い質、研究活動は特筆すべき高い質、研究成果は高い質と、高い評価を頂きました。教員個人も、園田昌司教授が「応用動物昆虫学会賞」、岩永将司准教授が「日本蚕糸学会賞」、そしてバイオセンターの岡本昌憲准教授が「日本学術振興会賞」を受賞する等、顕著な成果をあげています。

しかし、本学部は100周年を前に大きな岐路に立たされています。若い世代の農林水産業への実体験が薄れ、少子化も相まって、本学部の認知度と入試倍率の低下が深刻化しています。近隣の福島県や群馬県にも農学系学部が設立され、競争も激しくなりました。教職員一同、まずは学生への手厚い教育や地域社会に貢献する研究を通して、学生、ご家族および地域の方々にも喜んで頂くことや広報活動の強化が必須です。

とは言え、最も強力なステークホルダーである同窓生の皆様のお力添えが必要です。皆様におかれましては、本学での学びや社会で実践されたこと等を、ご家族や身の回りの人達に語って頂きたいと思っております。皆様のご発信により、一人でも多くの小中高校生が本学部を目指してくれることに繋がると確信しております。コロナとの戦いも厳しさを増しておりますが、引き続き、皆様のご健勝とご活躍、そして本学部への変わらぬご支援・ご協力を賜りますよう、何卒よろしくごお願い申し上げます。



理事長就任挨拶

峰ヶ丘同窓会理事長
雑草管理教育研究センター

小笠原 勝 (農昭53卒)

この度、農学部峰ヶ丘同窓会理事長を仰せつかりました昭和53年農学科卒の小笠原でございます。私の生まれた1956年は「もはや戦後は終わった」と経済白書が戦後復興の終焉を高らかに宣言した年でもありました。石油ショックやバブル崩壊など多少の波風はありましたが、社会は総じて活気に満ちていたような気がします。年配の方なら、皆さんご存知かと思いますがクレージーキャッツの「ウンジャラゲ」という歌に「木曜日はモーリモリ、金曜日はキンキラキン」という台詞があります。まさにそのノリで生きてきたように思います。ところが、2011年3月11日14時46分にマグニチュード9.0の巨大地震とそれに伴う津波が発生しました。研究室の書棚から本が崩れ落ち、ようやく

のことで家に帰ってテレビをつければ、あの信じ難い大津波の光景でした。人生後半になってのまさかの驚天動地の出来事でした。そして今般の新型コロナです。全国津々浦々、老若男女がマスクで顔を覆い、非常事態宣言だの移動制限だの、誰がこの異常な有様を想像したでしょうか。

新型コロナによって、大学はもとよりさまざま場面で社会活動が大きな制約を受けましたが、この大禍の最大の被災者は誰かといえば、それは将来の弾みをつけなければならない大切な時期を無為に過ごさなければならなかった若者に違いありません。

昨年度、同窓会は学生会員に対して緊急的な経済支援を行ないましたが、さらなる支援が必要になるやも知れません。また、来年には、農学部創立100周年という本学開闢以来の最大のイベントが控えております。同窓会の役割は会員相互の親睦と会員及び母校への支援に他なりません。会員の皆様方からの忌憚のないご意見を拝聴しながら、同窓会運営に微力ながら尽くしていく所存ですので、一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます、ご挨拶に代えさせていただきます。

峰ヶ丘同窓会の新型コロナ学生支援活動について

2020年1月に世界保健機関(WHO)が新型コロナウィルスの世界的な感染爆発(パンデミック)を宣言して以来、もう少しでまる2年が経とうとしております。この間、非常事態宣言が幾度か出され、その都度、さまざまな場面で経済活動は停滞を余儀なくされました。生活費や学費をアルバイトで賄っている多くの学生もこの限りではありませんでした。そこで新型コロナの煽りを受けて困窮状況に陥った学生に対して、峰ヶ丘同窓会は緊急的な支援を行うことにいたしました。

具体的には、昨年(2020年)は、46名の農学部学生に対して総額260万円余りの支援を行ったほか、10月にも総額200万円を農学部へコロナ支援金として寄付致しました。また、これまでに3名の学生に対して学費支援を行いました。さらに、今年度は(2021年)、新たな学生

支援策として、大学の農場で取れた米(ゆうだい21)の無料配布(2kg、1000名分)を計画しております。

支援の多寡を他の同窓会と比較するべきではないかも知れませんが、峰ヶ丘同窓会の支援が金額的にも内容的にも群を抜いていることは衆目の一致するところであり、同窓会の存在意義を遺憾なくアピールできたのではないかと考えております。

峰ヶ丘同窓会の財務状況が学生数の減少によって、厳しい状況にあるにもかかわらず、会員の皆様の理解と協力があつたればこそ、このような手厚い支援ができたのであり、改めて皆様方に深く感謝申し上げます次第です。ここに1日も早い新型コロナ収束を祈願しながら、これまで実施した峰ヶ丘同窓会の新型コロナ学生支援事業を報告いたします。(文責 小笠原 勝)

クラス会 (1クラス会)

全国のクラス会のご紹介です。毎年たくさんのクラス会が催され、ご寄稿いただいています。紙面の都合上、写真は1枚、原稿は800字までとさせていただきます。何卒ご協力のほどお願い致します。

1 農化8回生(昭35年卒) クラス会

日 時: 2020年10月29日木曜(12~15時)

場 所: さいたま市

参加者: (写真向かって左から) 野中・内田・塚本・村山・本澤・植平・神山・新関

かつては、フラスコ会と称して5~10年置きでしたが、卒業して60年が経ち余生少なくなるにつれ毎年開催しています。今回は、GoToクラス会と称して立地的に便利な浦和駅近くの中野料理店です。コロナ禍による巣ごもりで食欲がなくなっていると言いながらも、円形テーブルを囲んで学生時代の仲間8名とのランチは全員完食しました。



前回は宇大70周年に合わせて開催し、来年(2021年)は10月29日金曜に決めましたが、農学部100周年の再来年も開催したいと思っております。(文責: 本澤)

特集

コロナ禍で学生生活はどう変化したのか — 学生評議員との意見交換会 —



〈はじめに〉

2021年、前期の期末テスト、東京オリンピック、そして帰省の規制が余儀なくされたお盆が過ぎた8月後半、18日と25日に、Zoomを使ったビデオ会議にて、農学部学生さんと峰ヶ丘同窓会常任理事メンバー（農学部教員）とで意見交換会を行いました。参加した学生さんは、各学科、学年で2名ずついる同窓会学生評議員の皆さん。合計9名の方にご参加いただきました。話題は「コロナ禍で学生生活はどのように変化した、今何を考えているのか」。学生の皆さんの率直な意見を聞くことができました。

- ・録音された音声よりも**頭に入りやすい**。
- ・先生に**質問しやすく**、（雑談も含め）有意義な情報が得られる。
- ・対面だと強制的に**生活が矯正**される。時間が決まっていることは重要である。
- ・同じ**学科のメンバーと勉強**した方が、モチベーションが上がる
- ・周りの友達と**わからないことを相談**できることが嬉しい。去年は気軽に相談できる友人がいなかった。



2021年度前期の対面講義の様子 密にならないような座席配置

〈学習面について〉

2019年度以前の講義は、学内の教室で行う「対面講義」でした。また、2020年度は新型コロナウイルス感染防止の観点から自宅でも受講できる「オンライン講義」での講義が主に行われました。そして2021年度の前期は、対面とオンライン講義が週替わりで交互に開講する「併用」日程で、蜜を避けるための分散登校で講義を実施しました。様々な講義システムを経験してきた学生の皆さんに、実際のところコロナ禍で学習面ではどのような変化があったのか聞いてみました。

Q：オンライン講義の嫌なところは？

- ・講義が**受動的**で、一方通行に感じる。
- ・ビデオ会議だと声聞き取りにくい。
- ・講義**内容が簡単**になっているのではないかと感じる。もっと深いことを知りたい。
- ・物足りなさは感じる。身についた実感はないかも。
- ・先輩の話を聞いて、明らかに**実習の時間は足りなかった**と感じる。
- ・オン・オフがない。メリハリがない。
- ・生活が**乱れがち**だった。オンラインだと、後でやればいいのか、となって午前中はサボってしまい、夜にやりがち。
- ・オンラインだけでモチベーションが上がらない。
- ・周りの状況（どのくらい皆が理解しているのか、勉強しているのか）がわからない。
- ・先生と会えず、**大学や先生との距離**がすごくあったように感じた。接し方が難しい。
- ・先生とのやり取りがしにくい。対面で直接話すことでしか得られない情報があったように思う。

対面講義がいい！

意見交換会に参加した9名の学生の皆さんに、対面、オンライン、併用の3つだとどれがいいですか？とアンケートをとったところ、対面4票、オンライン0票、併用5票という結果でした。やはり対面での講義が良いと感じている学生さんが多いようです。

そこで、次の点について聞いてみました。

Q：対面講義の良いところは？

- ・対面の方がよく理解できているように感じる。**前のめり**に受けられる。



国際森林科学論の野外授業



演習林での下刈り実習

対面講義の方が集中でき、学習効果も高いと感じている学生さんが多いようです。内容も対面講義の方が充実しているのではといった意見もありました。オンライン講義だと先生や友人に気軽に相談・質問できないといった意見も

あり、孤独感、大学との距離を感じた方も多かったように思います。

対面講義だと講義の開始時には教室に居なければなりません、オンライン講義だと、基本的には（期間内であれば）好きな時間に受講することも可能です。それがメリットでもあるのですが、結果として生活リズムが乱れてしまい、悩んだ方もいたようです。

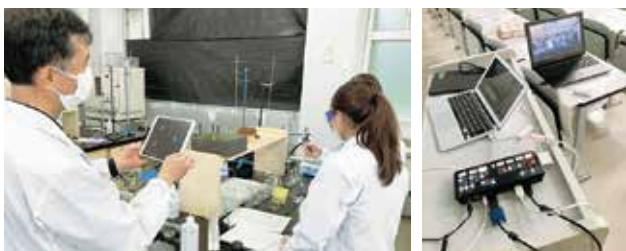
オンライン講義は復習しやすい

一方で、対面講義のみではなく、オンライン講義も組み合わせた併用型が良いと答えた学生さんが多かったため、オンライン講義のメリットについても尋ねてみました。

Q：オンライン講義の良いところは？

- ・資料の再確認がしやすい。復習がしやすい。
- ・ビデオ教材は繰り返し見られたので良かった。
- ・講義資料を紙よりも電子データとして持ち運べる点が良い。
- ・授業時間外でも質問できた。
- ・通学の時間を考えないで良い。大学に行かない時間は有意義に使えた。
- ・C-learning*は便利なので継続して欲しい。レポート提出、連絡が一括できています。
- ・国内・海外の他の大学での公開講義に参加できたのが良かった。
- ・反転型授業が良かった。

オンライン講義の最大のメリットは、復習のしやすさのようです。講義での説明を聞き逃した場合や、理解が追いつかない場合、または興味のある講義を、オンライン上のビデオ教材を活用すれば、巻き戻して、繰り返し再生することができます。また、テスト前にもう一度過去の講義を聞くことも（講義によっては）可能です。対面講義のように、きっちり講義時間が決められているよりも、オンデマンド型*講義のように、自分の授業計画、時間配分で学習できる形式を好む方もいるようです。オンラインの方が質問しやすい方もいました。遠距離から通っている学生にとっては、通学時間がないため、時間を有意義に使えて良いとの意見もありました。



オンライン配信を組み合わせた講義の様子

また、学習支援システムである C-learning* が便利であるとの意見もありました。講義資料の閲覧のみではなく、連絡や相談、質問、レポートの提出や返却など、講義に関するほぼ全てのやり取りが、本システム内で完結します。導入以前はこれらのやり取りが個別の方法で行われていたため周知しきれないこともありました。学生、教員お互いにとって便利になったように思います。導入したばかりの昨年度は教員も学生も操作が不慣れで、履修する学生への負担も大きかったと思うのですが、最近は解消されたように思います。

このように、基本的には対面講義がいいのだけれど、オンライン講義の良い点も見えてきたので、組み合わせたいという意見も多かったように思います。

オンライン学習が発展しているのは本学だけではなく、国内・国外のあらゆる大学が工夫を凝らしながら教材を作成し講義しています。そのなかで、インターネット上で閲覧可能な模擬授業の動画もたくさん存在します。さらには、他大学の学生も参加可能なオンライン開催の講演やシンポジウム・勉強会もあり、これらを活用して他大学の講義にも触れる機会を得た学生さんもいるようです。大学での学び方が多様化しているようにも感じました。

対面講義に慣れていない

また、現2年生からは下記のようなコメントがありました。

- ・入学して最初はオンライン講義のみだったので、対面講義に慣れていない。
- ・半々がちょうど良かった。毎日対面になったら体力が心配。

入学時からコロナ禍に見舞われている現2年生は、寧ろオンライン講義の方に慣れていない現状もあるようです。今年から一部が対面講義となり、課題を友人たちと教え合うという、1年生の時にできなかった何気ない教室での日常に、嬉しさを感じている学生もいました。

自分でも工夫できるかも

その他に、このような意見もありました。

- ・オンライン講義に慣れてきたので自分でも工夫できるかも。
- ・オンライン勉強会をした。講義の教材を共有、使ったファイルを画面共有しながら、(Zoom等のビデオ会議システムを使い) オンライン上で一緒に勉強した。
- ・パソコン操作に慣れた人が増えたことは良かったのではないかな。
- ・(講義のシステムがどうであれ) 自分の頑張り次第かなと思う。

オンライン講義に慣れてきた今、自分たちで工夫しながら学習に励んでいる学生が多く大変参考になりました。また、今年度の併用型日程の中で、反転型講義が良かったとの意見もありました。実際に行った教員に詳細を尋ねたところ、まず(昨年度までの2週分に相当する)講義内容についてオンラインで資料公開し(これは賛否ある。2週分は多いという意見も)、次の対面講義の回に、その講義内容を質問にも答えながら詳しく解説する、といった構成で行ったそうです。オンライン講義である程度内容を知った状態で、さらに対面講義で解説を聞くことができ、学生の理解と興味に繋がったようです。

「どのようなシステムにするか」も大切ですが、それよりも、そのシステムを「どう使い熟すか」、そのシステムの中で「どう工夫するか」が今は問われているのかなと感じました。



マスク着用での実験実習

用語解説

*「C-learning (https://www.c-learning.jp)」

学習支援システム。C-learning は学生と教員がインターネットを通じて教材や情報を共有できるソフト（アプリケーション）で、宇都宮大学では2019年度から大学院向けに契約していましたが、メディア講義への対応から、2020年度からは学部生用の講義にも採用しました。教員は講義資料をC-learning上に各講義時間までに掲載します。学生は、講義を履修登録すると、C-learning上で受講する講義のページにアクセスできます。そして、各自のパソコンやスマートフォンから、そのC-learningページに掲載中のスライドや音声資料を閲覧、またはダウンロードして講義を受講します。レポートの提出、アンケート、小テスト、連絡等が可能です。

*「オンデマンド型」

学生はC-learningページに掲載中のスライドや音声資料を閲覧、またはダウンロードして講義を受講します。実際は、資料の掲載期間内であればいつでも（何度でも）受講できる形式で、我々はこの形式を「オンデマンド型」と呼んでいます。このようなオンデマンド型の講義では、学生は、理解しにくい、または興味のある講義資料を、何度も見直すことができます。

〈生活面について〉

学生の皆さんには、交友、娯楽、サークル、アルバイトなどの学習面以外での変化についても聞いてみました。

人とあまり話さない、会わない

するとまず聞こえてきたのは、人との繋がりが減ったことへの寂しさでした。

- ・友達と出かけたいと思っていたところに行けないことがストレス。
- ・人とあまり話さない、会わない。友達と遊ぶ時間が減った点は寂しい。
- ・飲食店でのバイト代は減ってしまったが、バイトの時が人と会える唯一の機会だったため、ある時期は心の支えだった。
- ・サークル活動ができていない。友達と出かけたりができていない。
- ・帰省も難しい。かなり行動や接触を制限し、工夫しながら外出している。
- ・カラオケが好きなのに、ずっと行けていない。

先輩・後輩との繋がりが薄い

また、友人関係も狭くなっているとの意見が多くありました。

- ・同級生間での課題の相談などはスムーズにできているが、（過去問などの）先輩、後輩とのやり取りが難しい。
- ・知り合いの先輩がおらず、就職についての相談ができない。
- ・研究室に配属されたが、先輩たちと話す時間が少なく、繋がりが薄く感じる。
- ・先輩との繋がりが、2020年はほとんどなかった。2021年少しできたかも。

SNSをはじめ、オンラインで交流ツールは増えてはいますが、実際に会うことが大切だと改めて考えさせられました。3-4年生だと、すでにコロナ禍以前での大学生活での友達がいるので、同級生間でのコミュニケーションはオンラインでも比較的スムーズにできている印象がありました。しかしながら現2年生は、1年生の前期に同級生の友達をつくるのも苦労し辛かったと思います。このように新たに友人をつくることは難しく、コロナ禍以前の交友関係が主となり、交友関係は狭まってしまった印象です。このような現状の中、「学科の先生が毎週ビデオ会議でのコミュニケーションの場を設けてくれた」との意見もあり、オンラインで学年を超えての交流機会を設けていただいたことへの感謝の言葉もありました。

また、4年生の学生さんからは、今年経験した就活についても教えていただきました。

- ・就職活動やインターンも対面でできないことが残念。
- ・（先輩や同級生からの）就活の情報収集、相談が難しい。
- ・就活のオンライン化は進んでいたが、スムーズに行えている。
- ・交通費がかからないメリットはある。

その他、下記のような意見もありました。

- ・実家だとあまり生活面で困ったことはなかった。
- ・（塾の個別指導の）バイトは普通にできていた。
- ・サークルはオンラインで活動できている。
- ・対面講義の週に本を借りて、オンライン講義に週に読んだりして時間を有効活用している。
- ・図書館の閉館期間が長く、使用制限があることが残念。
- ・コロナに感染したらどうしようかという不安は強く感じている。

「大学生」と一括りにされがちですが、生活面について変化は人それぞれで、各自の置かれている状況、考え方、価値観の中で、抱えている悩みも異なるように思いました。

多くの不安と制限の中、学生さんたちはよく頑張っているなという印象を強く受けました。程よく諦め、社会状況を見ながら、考え方と行動を上手に転換しているように思います。また、交友関係での寂しさ、もどかしさに触れ、人との繋がりの大切さを痛感いたしました。

〈おわりに〉

私にとって初めて話す学生さんが大半で、当初は意見交換会が成立するかも不安でした。ですが皆さんとても協力的で、またそれぞれしっかりとした意見を持っており、嬉しく思うと同時に感心いたしました。Zoomで1時間程度のオンライン会議でしたが、全員顔出し（カメラON、マイクON）設定で、そして率直な意見交換ができたせいも、お互いの距離が近くなったように感じています。ご参加いただいた学生評議委員の皆様、本当にありがとうございました。

新型コロナウイルスによる影響は続き、2021年度の後期も大学への入構を制限せざるを得ない状況です。この1年半の経験をもとに、さらに工夫を凝らしていきたいと思っています。今後とも同窓会の皆様からのご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。

（文責：応用生命化学科、峰ヶ丘同窓会常任理事
金野 尚武）

退職のご挨拶



応用生命化学科 食品生化学
東 徳洋

兵庫の山奥で生まれ育った私には北関東は未知の世界でしたが、昭和63年10月（平成まであと3か月）に菅野長右門先生に招かれて、当時の畜産学科（畜産物利用学）に助教授として赴任いたしました。程なく学部改組が行われ、生物生産科学科（食品生化学と改称）、さらには現在の応用生命化学科と所属は変遷してまいりましたが、赴任以来30年余り、途中2年ほどカリフォルニア大学での充電期間も含め、変わることなく乳成分の機能に関する研究に携わってきました。卒論から40年以上にわたる研究生活で乳に教えてもらった事は、乳児には母乳が最適なものではあることはいまでもありませんが、成人にとって、乳・乳製品は生活習慣病の予防に最も優れた食品の一つであるという事です。乳には骨粗鬆症予防効果をはじめ、生活習慣病の入口である肥満を抑制する効果、認知症予防効果、心血管疾患の抑制効果etc.、etc.があることが次々と明らかにされており、最近の21か国13万6千人にも及ぶ大規模疫学調査では、乳製品の摂取量増加と生活習慣病による心血管疾患リスク低下の関連が明らかにされています。1日2食以上の摂取で有意なリスクの低下が認められていますので、皆様も乳・乳製品で生活習慣病予防に努めていただければと思います。

赴任当初は環境のギャップによるストレスから、十二指腸潰瘍を患ったこともありましたが、しだいに居心地の良さを感じるところとなり、その後は大禍なく、結局これまでの人生の半分はここに居座って過ごすことになってしまいました。しかしながら、ここ5年ほどはちょっと窮屈な違和感を覚えています。去りゆく者として、他の学部はどうあれ、農学部はこれからも、自由度の高い（地域何とかにのみこまれることなく）農学部であり続けてほしいと願っております。

今のところ退職後の予定はなく、しばらくは高等遊民として過ごそうと目論んでおります。最後に皆様の健康とご多幸、宇都宮大学農学部のますますの発展を祈念して退職の挨拶といたします。



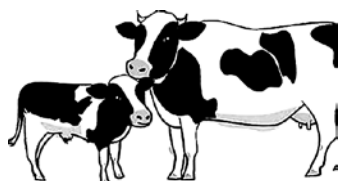
生物資源科学科 地質学研究室
相田 吉昭

昨年の春から引き続けている新型コロナ禍はパンデミックとして依然として猛威をふるっております。昨年度は私にとって現役最後の教育研究の年でしたが、講義のほとんどがメディア授業として行われましたことは、これまでに経験した事の無い特別な年でありました。

さて私は1991年4月に本学に着任してから30年間にわたり研究教育に携わり、本年3月末をもちまして定年退職いたしました。前任校の期間を加えると大学教員として36年9ヶ月の長きにわたり教育研究の場で充実した日々を過ごすことができました。この間、生物生産科学科植物生産学コースおよび生物資源科学科において、多数の教員の方々や事務職員の方々、そして技術職員の方々に大変お世話になり本当にありがとうございました。

地質学研究室では、フィールドを研究の場として栃木県内や日本国内のみならずニュージーランドの地質を解明するためにニュージーランド（NZ）のフィールド調査を毎年継続して行ってきました。学部学生や大学院生諸君を連れてNZの野外地質調査を現地での共同研究者と共に1週間～2週間一緒に体験することで、学生にとって何事にも変えがたい経験となることは、これまで沢山の事例を見てきました。とくに学生諸君がその後に取り組み卒論や修論研究に対するやる気が意欲的に変化してきます。一方、私の方では若い学生諸君のエネルギーを吸収して自身の活力を維持して研究を進めて来れたような気がします。学生諸君にいつも語っていることですが、伝統は受け継ぐだけでなく新たな伝統を自分たちで創りあげることが大事であること、NZのフィールド調査をしている時の自分が本当の自分の姿であり、生き生きと楽しく研究するために大学で頑張ってきたのかもかもしれません。

今後の宇都宮大学について語るとすれば、地域に貢献する大学であれと自己規定するだけではなく、グローバルな視点をおいた海外にも飛躍できる大学であって欲しいと期待しておりますので、農学部のさらなる発展をお祈りいたします。私自身は農学部の非常勤講師として専門科目と教職科目を引き続き担当しておりますので、どうぞよろしく願います。これまで長い間、本当に有難うございました。



退職のご挨拶



農業経済学科

安藤 益夫 (農経27回卒)

わずか6年間という短い教員生活でしたが、講義やゼミを通じて若い学生諸君と楽しく有意義で充実した時間を過ごすことができました。また、最後の1年間は峰ヶ丘同窓会理事長の大役を仰せつかり貴重な体験をさせていただきました。34年間の農水省研究機関で得た経験と知見を、少しは母校と後輩達に還元できたのではないかと考えています。と同時に、職業人の最後のステージを、母校に奉職できた幸運に感謝しております。

私は学生として4年、教員として6年、合計10年間農学部に在籍し、言わば大学の表と裏を経験しました。双方の時代背景はかなり違っていますが、一貫して変わらないものも幾つか実感しました。その一つが、学生と教員との距離・関係です。農業経済学科の場合、教員一人に4~5名の学生が配属され、1年半濃密に付き合います。そこでは、単なる専門知識や手法の伝授にとどまらず、世間の仕組みや物事の捉え方、さらには人生相談に至るまで多岐にわたるトピックを、研究室にとどまらず呑み屋や宿屋で熱く語り合う機会に恵まれています。こうして共有された時間は、学生と教員の人格的絆を深めるだけでなく、宇都宮大学に対する愛着と誇りの礎となっているように感じます。これこそ時代を越えて受け継がれ、今後も継承すべき「無形財産」ではないでしょうか。

一昨年以來、コロナ禍で3密回避やメディア授業が推奨され、学生と教員との距離が空間的にも社会的にも遠くなっています。とても残念であると同時に、上述の「無形財産」を継承する上で大きな障害になりはしないかと懸念しております。もちろん、学生と教員とのコミュニケーション方法は、それぞれの時代に応じて変えざるを得ませんが、その関係性の本質は時代を越えて継承して頂きたいと、勝手ながら期待しております。

最後に、私が1年間、理事長としての大役を恙無く全うできたのは、同窓会関係各位の御支援と御協力があってからこそです。ここに改めて深く感謝申し上げます。



新任教員のご挨拶



豊島 由香

所属・職種：農学部 生物資源科学科
准教授

専門：栄養生化学、代謝・内分泌学

千葉県千葉市で育ち、地元の県立高校を卒業後、お茶の水女子大学生生活科学部に入学しました。そこでは食物科学を学び、修士課程までビタミンCについて研究を行いました。ビタミンCは水に溶けると酸性ですが、当時の私の研究テーマは生体環境に近い中性水溶液中でビタミンCがどのように分解するかを明らかにすることでした。この研究をきっかけに生体内反応に興味を持つようになり、東京大学大学院農学生命科学研究科の博士課程では、タンパク質・アミノ酸の栄養状態がインスリン作用に及ぼす影響について研究を行いました。博士号(農学)を取得後、ポスドクとして米国へ渡り、NIHで武者修行をして参りました。帰国後は学振PDとして東京大学、助教・講師として日本医科大学、特任准教授としてお茶の水女子大学に在籍しました。そして、2021年7月より本学の農学部生物資源科学科に着任し、研究・教育に携わる機会を頂きました。

私の研究テーマは、食べ物によって動物の代謝がどのように変化するかを明らかにすることです。特に、摂取するタンパク質の不足やアミノ酸バランスの悪化した際に起こる現象を追及しています。タンパク質やアミノ酸が不足すると、血糖降下ホルモンであるインスリンの効きは良くなりますが、その一方で脂肪肝になります。この現象は肥満や糖尿病を伴った脂肪肝の状態と異なりますが、これを追及することは、生活習慣病の予防・治療法の確立を可能にするばかりでなく、動物が栄養状態に適應する仕組みを解明できると期待しています。私がこの研究を行うに当たって大事にしていることは、「正常な動物」を対象としている点です。病気という異常な状態は、遺伝子改変でも解明できるかもしれませんが、正常な動物の代謝変化を追及するためにはそれだけでは不十分と考えています。正常な動物で起こる“小さな”代謝変化を新たな視点でキャッチできる喜びを学生と分かち合いながら、本学の研究・教育の発展に貢献できるよう邁進する所存です。どうぞよろしくお願いいたします。



こんなことやってます 特別編

— 農学部 取り組み紹介 2021 —

今回は現在の農学部の取り組みなどを紹介させていただきます。スマートフォンやパソコンをお使いであれば、QRコードからさらに情報が見られますのでご利用ください。

〈SDGsへの取り組み〉



宇都宮大学では、SDGs (Sustainable Development Goals 持続可能な開発目標) に積極的に取り組んでおります。今や幼児期からSDGsについて学ぶようになり、SDGsが社会的風潮ともなってきた中で、これから就職を控え、社会を支える世代となる大学生こそSDGsを学ぶべきであるということで、各学部における教育・研究活動を進めています。SDGsフォトコンテストなどを実施するほか、2020年度からは1年生の必修授業として「SDGs入門」の講義を設けています。

令和2年度には夏秋前理事らのご尽力で、JSPS大学の世界展開力強化事業に採択され、国際学部と農学部を中心に、アフリカの6大学との連携も開始しています。

農学部では、理論の学びと農場や演習林での実体験を組み合わせ、真のSDGs人材の育成を進めています。

本学のSDGsへの取り組みについては、本年6月発売の『東洋経済 ACADEMIC SDGs に取り組む大学特集 Vol. 3』に掲載されました。また、9月発売のAERA MOOK『就職力で選ぶ大学2022』にも掲載されました。



2018年度からSDGsの達成に向けた観点で取り纏めた「宇都宮大学SDGs事例集」を作成しており、農学関連では82例が掲載されています。ぜひご覧ください。



◀ 宇都宮大学農学部 SDGs 事例集

https://www.utsunomiya-u.ac.jp/docs/2020SDGs-jirei_L7.pdf
上記アドレスか、QRから取り組み事例の詳細資料をご覧ください。

〈那須塩原市との連携事業〉

宇都宮大学は令和2年1月22日に那須塩原市との相互友好連携協定を結び、気候変動や地域活性化、学術研究において様々な活動を支援しています。環境省「令和2年度国民参加による気候変動情報収集・分析事業」に採択され、地球温暖化が地域の農業、観光、教育、防災に及ぼす影響について、教員と学生が市内各地でヒアリング調査を行っています。

農業分野では、農学部、地域デザイン科学部、バイオサイエンス教育研究センターのメンバーを中心に、園芸、米麦、酪農の生産現場で聞き取りや分析調査を行いました。

また、市民向けに気候変動の解説動画も那須塩原市出身の岡本准教授らが担当しました。その他にも、市民向けオンラインワークショップによる情報収集、渡辺美知太郎市長と学生らとのオンライン報告会を行いました。



これらの成果は、市のホームページやリーフレット等を通して、広く市民に公表しています。学生が主体的に参加したSDGsへの取り組みという点でも高く評価されています。本年度は二年目の事業も採択され、ホウレンソウなどの高原野菜について詳しい調査を進めています。

(文責 農学部長 山根 健治)



生産者聞き取り&採取調査



アスパラ調査

【上記取り組み関連動画を一般公開しております。ぜひご覧ください。】



◀ 宇都宮大学生作成動画
【気候変動の影響と対応策】



◀ 宇都宮大学生報告会動画
【市民参加による気候変動
情報収集・分析事業】

様々な媒体で情報発信しています！

今年度もコロナ禍のため、オープンキャンパスや高大連携事業が制限されています。そのため、オンラインイベントやYouTubeを使用した紹介に取り組んでいます。農学部で行っている研究、教育など様々な最新情報を写真や動画で紹介しています。ぜひご覧ください。



<https://www.youtube.com/user/utues>



YouTube
宇都宮大学農学部ツアー

宇都宮大学
農学部公式



公開開始！

農学部で行っている実験や研究、授業など、様々な最新情報を写真や動画で投稿しています。ぜひ御覧ください。 https://www.instagram.com/uu_nougakubu/



宇大サポーター募集中！ 宇都宮大学3C基金



皆様からお寄せいただいたたくさんのご寄附は、奨学金、教育研究支援、地域連携、キャンパス環境整備等の事業のために活用させていただいております。

振込

3C基金リーフレットに添付の振込用紙をご利用ください。寄附目的をお選びいただけます。指定の金融機関からの振り込みには、手数料がかかりません。

クレジットカード・コンビニ・ネットバンク

下記ホームページから簡単にお手続きできます。寄附目的や単発寄附・継続寄附をお選びいただけます。若干の手数料がかかります。

宇都宮大学3C基金事務局

宇都宮大学3C基金



〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町350

TEL:028-649-8177

E-mail:kikin@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp

リサイクル募金～宇都宮大学古本募金はリサイクル募金に変わります～

「宇都宮大学リサイクル基金」は、読み終えた本・DVD・切手・はがき・ブランド品等をご提供いただき、その査定換金額が宇都宮大学に寄附される取り組みです。WEBまたはお電話で申し込みいただけますと、ご指定の日時に宅配業者が集荷に伺います。ご寄附いただけるお品物が5点以上の場合、送料無料でとなります。

*申込受付から査定・報告、および送金は「リサイクル募金きしゃぼん」(運営:嵯峨野株式会社)が担当します。

OK 基金になるもの

切手・はがき・テレカ・商品券
貴金属・ブランド品・本・DVD
CD・ゲーム等

NG お出しただけなもの

ISBNコードのない本・週刊誌、
タバコ、カビ臭・著しい破損、汚れ、
付属品が欠品しているもの

●お申し込み
はWEBで

宇都宮大学リサイクル募金



kishapon.com/utsunomiya-u/



●お問い合わせ ☎ 0120-29-7000 9時～18時

*【運営協賛】リサイクル募金きしゃぼん(嵯峨野株式会社)
埼玉県公安委員会 古物商許可証 第431100028608号



*本は、ISBNコードがあり、発売から10年以内のもの

令和3年度理事会報告

令和3年度理事会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止となりました。

このため、令和2年度決算及び監査報告、令和3年度予算について、各理事・監事への書面による承認をお願いし、構成員（会長・副会長・理事長・常任理事・理事・監事）66名中、過半数となる43名の常任理事会への一任をいただきました。

これにより、以下の報告をいたします。

会務報告

1. 常任理事会等の開催

- 2020. 7. 13 第1回常任理事会
- 2020. 8. 07 第2回常任理事会
- 2020. 9. 16 第3回常任理事会
- 2020. 10. 21 第4回常任理事会
- 2020. 12. 16 第5回常任理事会
- 2021. 2. 17 第6回常任理事会
- 2021. 3. 19 第7回常任理事会
- 2021. 3. 18 令和2年度宇都宮大学同窓会連絡協議会
- 2021. 4. 21 第8回常任理事会
- 2021. 5. 21 第9回常任理事会
- 2021. 6. 20 令和3年度理事会中止

2. その他の行事

- 2021. 3. 24 学位授与式
- 2021. 4. 03 入学式
- 2021. 4. 03 保護者ガイダンス中止
- 2021. 4. 08 新入生歓迎会中止
- 2021. 5. 12 会計監査

3. 「峰ヶ丘同窓会報」の発行

- 2020. 10. 10 第158号発行

4. 支援制度

- 教員教育研究支援制度（農学部栄誉賞） 計2件
 - 学生支援制度（学生支援2件・農学部栄誉賞1件） 計3件
- 以上会務報告

会長委嘱理事（令和3年度）

- | | |
|------|----------------------|
| 理事長 | 小笠原 勝（農54） |
| 常任理事 | 生物資源科学科 福井えみ子（院畜62） |
| | 香川 清彦（農H3） |
| | 応用生命化学科 金野 尚武（生化H16） |
| | 農業環境工学科 守山 拓弥（院環H16） |
| | 農業経済学科 ○大栗 行昭（院経58） |
| | 森林科学科 大久保達弘（林57） |
| | （○印：新任） |

令和3年度事業計画（案）

1. 常任理事会の開催
2. 「峰ヶ丘会報」の発行（年1回 全会員に送付）
3. 各支部総会への出席
4. 農学部への協力支援
5. 学生評議員会の開催
6. 「学生支援制度」の実施
7. 「教育研究支援制度（教員会員）」の実施
8. 大学諸行事の協力
9. その他

令和3年度理事・監事

- | | |
|------|--------------------|
| 会長 | 松澤 康男（農41） |
| 副会長 | 大塚 国一（開48） |
| | 後藤 達夫（経46） 福島支部長 |
| | 大嶋 稲良（開51） 群馬支部長 |
| | 菊池 正蔵（農46） 茨城支部長 |
| | 鈴木 英雄（林H2） 埼玉支部長 |
| | 荒井 真一（開58） 栃木県庁支部長 |
| 理事長 | 小笠原 勝（農54） |
| 常任理事 | 大栗 行昭（経院58） |
| | 大久保達弘（林57） |
| | 福井えみ子（畜院62） |
| 理事 | 香川 清彦（農H3） |
| | 守山 拓弥（環院H16） |
| | 金野 尚武（生化H16） |
| | 和久井保彦（経H13） |
| | 檜山 友貴（経H29） |
| | 青木 知義（畜36） |
| | 植木 保夫（畜40） |
| | 吉澤 緑（畜50） |
| | 増山 秀人（畜62） |
| | 横山 晃子（生動H9） |
| | 星 一美（生動H11） |
| | 上野 武二（工32） |
| | 小川 正順（工49） |
| | 福田 保（開50） |
| | 清水 靖夫（開59） |
| | 青柳 俊明（開61） |
| | 五月女寛行（環H7） |
| | 大久保尚彦（環H12） |
| | 渡辺 雅人（環H15） |
| | 加藤 秀正（化40） |
| | 宇田 靖（化45） |
| | 杉田 和之（化50） |
| | 渡辺 正夫（化51） |
| | 田崎 公久（化H10） |
| | 青沼 伸一（化H11） |
| | 石原島由依（生化H29） |
| | 高橋 廣美（総42） |
| 監事 | 小椋 智子（化32） |
| | 大金 重秀（林H2） |
| | 稲見 定幸（経H8） |
| 顧問 | |
| 学長 | 池田 宰 |
| 学部長 | 山根 健治 |
| | 和賀井睦夫（農25） |
| | 竹永 博（工40） |

お祝い

このたびは、おめでとうございます。

叙 勲

2020 秋 瑞宝双光章 林45 高野 弑夫
 2020 春 瑞宝小綬章 経46 伊藤 元久
 2019 秋 瑞宝小綬章 総33 宮本 二郎

昇 任

農学部教授 大澤 和敏
 バイオサイエンス教育研究センター教授 児玉 豊
 農学部教授 有賀 一広
 農学部附属農場教授 高橋 行継

慶弔についてのご連絡

峰ヶ丘同窓会会員の慶事および弔事の際には、会員の方々からのご連絡に基づいて対応しております。慶弔事が発生しました際には、下記事務局までご連絡ください。

I. 慶事（褒賞、叙勲等）の場合

1. 受章者、受賞者の氏名、年齢、卒業年次、学科、住所、電話等
2. 受章、受賞の種類（褒賞、叙勲その他の賞の種類）
3. 受章、受賞の日時

なお、叙勲のご連絡は、新聞などに掲載されますが、学歴まで記されておられませんので、事務局で判断し掲載することができません。関係各位からのご連絡により、ご報告とさせていただきます。何とぞご了承のほどをお願いいたします。

II. 弔事の場合

会員、会員以外の顧問・元顧問、現職教員、元教員が対象となります。

1. 逝去者の氏名、逝去日、卒業年次、学科
2. ご遺族（喪主）の氏名（逝去者との続柄）
3. 通夜・告別式の日時、場所

なお、事務局宛にご連絡がない場合、当方からの郵便物の送付を中止できませんので、何とぞご了承のほどをお願いいたします。

●連絡先：峰ヶ丘同窓会事務局
 TEL：028(649)5400
 E-mail：minegaok@cc.utsunomiya-u.ac.jp
 月・水・金 9：00～17：00

寄贈図書

。「農業用語の基礎知識」

藤重 宣昭

昨年度退職の教員

令和3年3月31日をもちまして、以下の教員が退職されました。

・執印 康裕 ・佐藤 祐介

今年度定年退職予定の教員

令和4年3月をもちまして、以下の教員が退職されます。

令和4年3月までの連絡先は、以下の通りです。

・和田 義春：生物資源科学科 028-649-5414
 wada@cc.utsunomiya-u.ac.jp
 ・福村 一成：農業環境工学科 028-649-5495
 fukumura@cc.utsunomiya-u.ac.jp
 ・小笠原 勝：雑草管理教育研究センター
 028-649-5153
 masaruo@cc.utsunomiya-u.ac.jp

事務局よりお知らせ

私事、突然ですが、令和3年3月をもちまして同窓会事務局を退職いたしました。長い間、大変お世話になりました。ありがとうございます。農学部に関わる事が出来た15年、農学を愛する先生方や堅実な宇大生のお陰で、心豊かで貴重な時間でした。これからも農学部同窓会を心から応援しています。ありがとうございました。（多田 彩子）

この度、4月から峰ヶ丘同窓会事務局で働くことになりました。歴史ある農学部また同窓会員の皆様と関わり合うことが出来、感謝申し上げます。何かと至らない点もあるかと思いますが精一杯努力致しますので、何卒よろしくお願い申し上げます。（横瀬 成江）

次回会報発行日程 原稿締め切り日のお知らせ

同窓会では、皆様からの情報をお待ちしております。会報次号の発行は、2022年10月の予定です。原稿の締め切りは、2022年6月30日となりますので、宜しくお願いいたします。

編 集 後 記

昨年、今年と、各県の支部総会にも参加できず寂しく思っております。来年で100周年。同窓生どうし集うことができる日を心待ちにしております。（金野）

こんなこと やってます (その15)

応用生命化学科 生物化学研究室

脳神経系の病気であるうつや認知症などの精神疾患は日本の5大疾患の中で最も患者数が多い病気です。世界では、うつ患者が3億5千万人以上、認知症患者が5千万人以上いることを世界保健機関（WHO）が報告しています。このように精神疾患は地球規模で大きな健康問題となっています。日本は超高齢社会であり、65歳以上の高齢者の割合は増え続けており、50年後には人口の約40%が高齢者になるとされています。また最近、2019年から続くコロナ禍の影響により、日本のうつ患者が倍増したことが報道されました。そのようなさまざまな社会背景が影響し、今後も精神疾患患者は増加していくことが予想されています。一方、副作用のない安全な脳神経治療薬がないのが現状です。最近、新しいアルツハイマー認知症薬のアデュカヌマブが「夢の薬か？」と話題になったところです。これから実用され本当に夢の薬として認められていくかもしれません。このように精神疾患の予防や治療は、世界的に話題にのぼり注目され、最重要な健康課題の1つとなっています。

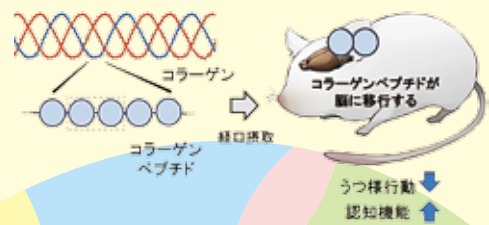


コラーゲンは、必須アミノ酸であるトリプトファンを含まないためアミノ酸バランスが悪く、栄養的価値の低いタンパク質とされることもあります。本研究室では、コラーゲンから生成する低分子ペプチドの体内動態と生理機能に関する基礎研究を展開しています。私たちは、医薬品の開発ではなく、日常の食事の中で生体内のさまざまな疾病を予防するという観点で研究を進めています。コラーゲンを分解したコラーゲンペプチドを摂取すると、コラーゲンペプチドが脳にまで移行することを突き止め、さらにコラーゲンペプチドを摂取したマウスの行動を解析したところ、うつ様行動が減少することや認知機能が向上することを発見しました。これらの作用に関与する脳内物質や脳細胞の変化など解析を進めており、メカニズムの全容解明を目指しています。このように、コラーゲンペプチドが精神疾患を予防する素材として有効である可能性が示されました。

コラーゲンは、動物の体内で最も多いタンパク質であり、食品加工残渣など食品廃棄物に多く含まれています。食品ロスは世界で13億トンとされ、その削減は持続可能な開発目標（SDGs）「つくる責任とつかう責任」の課題の1つとして取り上げられています。私たちは今後も食品由来の機能性素材の開発に向けた基礎研究を展開し、SDGsの達成や人々の健康増進と寿命延伸のために貢献するとともに、産学連携にも努め「宇大発」食品機能素材の開発を目指したいと考えています。

最後に、本研究を含む一連の研究成果に対し、令和2年度日本栄養・食糧学会奨励賞を受賞いたしました。その授賞に対し、農学部栄誉賞および峰ヶ丘同窓会より副賞を頂きました。峰ヶ丘同窓会会員の皆様にご場をお借りして厚く御礼申し上げます。今後も研究教育活動に日々精進して参りますので、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

(文責 応用生命化学科 生物化学研究室 水重 貴文)



フアイレンダ用中心点

昔の同窓時報・写真をお送りください

2023年（令和5年）の農学部100周年記念式典に向けて、「100年を振り返る写真集」の作成と「峰ヶ丘同窓会誌集の公開」を企画しております。宇都宮大学での思い出の写真、学生時代の懐かしい行事写真、大学縁の品の一枚など、引き出しに眠っている古い写真がございましたら、同窓会に寄贈いただけますと幸いです。

また、昭和16～23・25年の同窓時報（会報）を探しています。お持ちの方がいらっしゃいましたら、ぜひご一報ください。

峰ヶ丘同窓会では、貴重な資料として保管するとともに、皆様にご覧いただけるように計画しています。もし、同窓会に寄贈いただける場合は、以下までお送りください。

2023年（令和5年）3月31日まで募集しています。

〒321-8505 宇都宮市峰町350 宇都宮大学内 農学部峰ヶ丘同窓会 あて
お問い合わせ：028-649-5400 峰ヶ丘同窓会事務局

月・水・金 9：00～17：00 minegaok@cc.utsunomiya-u.ac.jp



峰ヶ丘会報 第159号 令和3年12月10日発行 編集人 常任理事会 発行人 松澤 康男

発行所 宇都宮大学農学部峰ヶ丘同窓会 〒321-8505 宇都宮市峰町350

TEL・FAX 028 (649) 5400 e-mail:minegaok@cc.utsunomiya-u.ac.jp

郵便振替 00330-0-357 宇都宮大学農学部峰ヶ丘同窓会

印刷所 株式会社 井上総合印刷 TEL 028-661-4723